



天竺
秘
藏
中

2382



三戈周縁弁疑中目録

一 比鉄極示の周縁

二 佛 三 補

四 船のさし川

五 栞取穴

六 釜の周縁

七 鉄の舟周縁

八 聖人の篇



- 九 外典の篇
- 十 肉曲の篇
- 十一 醫書
- 十二 曆
- 十三 佛壇
- 十四 合掌して仏をおむ周縁
- 十五 仏に代て蓮花を周縁
- 十六 月の盈虚
- 十七 人後世を死して死ひやうをさる

三才因縁并衆美々之中

一 地獄極楽の如現

佛の因を履きさるるこそ身一六元生の要
 業を修るをんて地獄へ落ん事を申んで
 一也一也地獄へ落るるごとく一外仏の建立こ
 ち一穴を掘て人の落ん事をいほはら
 けんあつてもおと一穴を掘んよはら下地こ
 を掘て一六生の落ん事をいほまんの人
 何ぞても地獄を破りて落ん事なりといふよ
 仏の地獄を掘られハ六生の要業をや
 一めんあつても極楽浄土を掘られハ善心

因縁并衆

心

色やれしや、外や、根本、後念を戒めて
心を修む小修す地ごく極果は九生の胸の内
ありあ一念五心を弁して人をいふ邪を
改むし乃ど教生偷盜を所、法人の心を奪
付はとも胸の内小地ごくも穢し一念善心を
弁して人を改む心を改むれと善出二惡を教
修淨、乘和忍辱を専ら付はとも胸の内極果
も現す仏の道を九生保て八生地ごくをこりて
十方淨土を攝へらるることを唯法の降出といふ
たむ此の内こそ降出されとのこそさま
報すとしや、眞実の降出こそ要に攝られ

一、化報の降出といひて有り三三の降出こ
も子細ハ悪人々儘ハ西方も地獄も善人々儘ハ
東方も極楽も、西人の降出地ごく之種の
下にあれ、況んは法の切味の勝れ、善人の
の降出、さう西方十方位位を信じて善人の
果よありさう知なり、吾胸の内極果の
心ごとくは、西をうらを悉して十方位の仏
心をこめても、十方位の仏心を信じても、極果世
界からぬ、ちや、佛は從是西方、色十
位佛土といわれ、れた、佛は吾胸の内
阿れば、生を盡すは、淨土、往生彼

おぼし洗れきり此の如しきをしるるは
西の地生けり此の如しきとしるるは
降きしれり此の如しきとしるるは
一む半里はく西の地一む半里はくして元目より
大晦日まで一月と降きしきありしを借て十方
年をうつても百万年をうつても借りて八あり
おもしろきにきし洗れり人のまげり眼さ
にきてりありしきして却て昔国よりぬえぬや
我胸の日の降きも此の如しきとしるるは
のしよ降きしきしてありしを借りて西
をうつても十方年をうつても借りて西

何所有南北がれれば極東に西の地の如し
きし方南の如しき善くくもけり十方年を借
りて悪くくもけり極東の地はくには善くく
きし方の如しき極東の地はくには善くく
一む半里はく西の地一む半里はくして元目より
大晦日まで一月と降きしきありしを借て十方
年をうつても百万年をうつても借りて八あり
おもしろきにきし洗れり人のまげり眼さ
にきてりありしきして却て昔国よりぬえぬや
我胸の日の降きも此の如しきとしるるは
のしよ降きしきしてありしを借りて西
をうつても十方年をうつても借りて西

人ありんば八苦と比くを移し候し候し
らる幸はなほぬこをを以て仏の国の
中より先きに元生の悪を修て地獄を
幸をさげさすませらる也

二 佛の因縁

佛に三程の仏あり一は六ヶは佛の仏あり二は
報身の仏あり三は慈悲の仏あり慈悲の仏あり
報身の仏あり報身の仏あり六ヶは佛の仏あり
又言一は六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり
報身の仏あり六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり

るありんば一は六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり
の仏あり一は六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり
よき者なりは六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり
虚度那仏身とて六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり
たのは報身の仏あり六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり
慈悲の仏あり六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり
あり次に報身の仏あり六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり
あり六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり
の仏あり六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり
本有の仏あり六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり
よ八天かち六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり六ヶは佛の仏あり

其後し又一切元生悉有佛性未奉位
至有變易た下してそより上の言さる
る言さる何してそより上の言さる
却て捨像なきの報元の仏も又轉る
仏性法の二の如や昔光生のあまの三法の靈應
として却て後ひ元生の一念の心にはあまの
としより無量のの仏の肉身の仏なればやそ入
滅すの如く既に一人の如やあまの三法の導師と
して天上天下唯我独尊として後せられん九
生元の仏故に十歳より十半歳と既に幸
年の化度終て入滅せられん九生より本像

の仏の常性や滅して化度永く傳りては
光生の言さる如く滅後三千年の今日まで
よく形を留めて元生を利するを報
元の仏の生元の仏の言さる一報又心はの仏の何
そ報元の仏の言さる如く一人の如くや言さる
そしよりあまの言さる如く元生の言さる
仏がれたれり元生の言さるの實の仏の勤
より心はの言さる如く元生の言さる
元の仏の言さる如く元生の言さる
存が如く元生の言さるの實の仏の眼に
付難ひは傳ては言さる元生を一念の中として天

昔胸の目の女飛かぐれやとらふ歌
判し本梅枝をさしてやまのつらゆを刻と一切
元を悪有依性(一)と一(二)の私の飛かぐ
のやいしよ私判に多んや且念をなれて善
先ちのこぶを藤あぐり(一)と老と悟用(二)
生依(一)や二(二)水を流れては(三)のな(四)やく元
生を(五)は(六)れて(七)外(八)も(九)依(一〇)所(一一)よ(一二)愛(一三)心(一四)如(一五)の(一六)水
の(一七)流(一八)る(一九)者(二〇)水(二一)を(二二)流(二三)して(二四)流(二五)流(二六)具(二七)出(二八)の(二九)水(三〇)の(三一)流
る(三二)者(三三)水(三四)を(三五)流(三六)せ(三七)し(三八)に(三九)念(四〇)也(四一)三(四二)千(四三)二(四四)百(四五)八(四六)十(四七)粒
は(四八)く(四九)流(五〇)れ(五一)よ(五二)ら(五三)生(五四)り(五五)の(五六)私(五七)ま(五八)て(五九)ハ(六〇)ナ(六一)ケ(六二)ル(六三)レ(六四)バ(六五)ラ(六六)セ
の(六七)私(六八)お(六九)ね(七〇)し(七一)生(七二)り(七三)の(七四)私(七五)が(七六)善(七七)念(七八)を(七九)流(八〇)れ(八一)バ(八二)ラ(八三)セ

あま又(一)滅(二)を(三)さ(四)ま(五)れ(六)ば(七)き(八)ま(九)し(一〇)入(一一)滅(一二)して(一三)こ
火(一四)葬(一五)し(一六)ハ(一七)ナ(一八)セ(一九)レ(二〇)ル(二一)也(二二)説(二三)に(二四)云(二五)々(二六)ナ(二七)リ(二八)テ
こ(二九)ろ(三〇)六(三一)分(三二)の(三三)舎(三四)利(三五)と(三六)あ(三七)せ(三八)れ(三九)と(四〇)バ(四一)善(四二)生(四三)り
の(四四)私(四五)善(四六)念(四七)の(四八)下(四九)で(五〇)は(五一)い(五二)し(五三)ら(五四)後(五五)梅(五六)枝(五七)念(五八)也(五九)三
千(六〇)二(六一)百(六二)八(六三)十(六四)粒(六五)の(六六)私(六七)ま(六八)て(六九)ハ(七〇)ナ(七一)ケ(七二)ル(七三)レ(七四)バ(七五)ラ(七六)セ
善(七七)念(七八)を(七九)流(八〇)れ(八一)バ(八二)ラ(八三)セ(八四)ハ(八五)ナ(八六)ケ(八七)ル(八八)レ(八九)バ(九〇)ラ(九一)セ
一(九二)切(九三)元(九四)の(九五)私(九六)ま(九七)て(九八)ハ(九九)ナ(一〇〇)ケ(一〇一)ル(一〇二)レ(一〇三)バ(一〇四)ラ(一〇五)セ
す(一〇六)ら(一〇七)私(一〇八)に(一〇九)ぎ(一一〇)ひ(一一一)を(一一二)流(一一三)れ(一一四)と

三 神

あま又(一)滅(二)を(三)さ(四)ま(五)れ(六)ば(七)き(八)ま(九)し(一〇)入(一一)滅(一二)して(一三)こ
火(一四)葬(一五)し(一六)ハ(一七)ナ(一八)セ(一九)レ(二〇)ル(二一)也(二二)説(二三)に(二四)云(二五)々(二六)ナ(二七)リ(二八)テ
こ(二九)ろ(三〇)六(三一)分(三二)の(三三)舎(三四)利(三五)と(三六)あ(三七)せ(三八)れ(三九)と(四〇)バ(四一)善(四二)生(四三)り
の(四四)私(四五)善(四六)念(四七)の(四八)下(四九)で(五〇)は(五一)い(五二)し(五三)ら(五四)後(五五)梅(五六)枝(五七)念(五八)也(五九)三
千(六〇)二(六一)百(六二)八(六三)十(六四)粒(六五)の(六六)私(六七)ま(六八)て(六九)ハ(七〇)ナ(七一)ケ(七二)ル(七三)レ(七四)バ(七五)ラ(七六)セ
善(七七)念(七八)を(七九)流(八〇)れ(八一)バ(八二)ラ(八三)セ(八四)ハ(八五)ナ(八六)ケ(八七)ル(八八)レ(八九)バ(九〇)ラ(九一)セ
一(九二)切(九三)元(九四)の(九五)私(九六)ま(九七)て(九八)ハ(九九)ナ(一〇〇)ケ(一〇一)ル(一〇二)レ(一〇三)バ(一〇四)ラ(一〇五)セ
す(一〇六)ら(一〇七)私(一〇八)に(一〇九)ぎ(一一〇)ひ(一一一)を(一一二)流(一一三)れ(一一四)と

連を引しりし九邪鬼の事なるはせむを脈
 脈厚きうりしりしたるはの室より執くじと
 作らばし二重とすしにせしりま天恵を祇
 の信信宣に備わらぬもの利潤をくし
 しつた必ず祇明の尋ねるは二重一旦乃依
 信子能だにしりた終て八月月の憐れをさる
 しと作られ三教を隠しとせしこ八信を業
 の信信宣に務丸を念念ししつたを病れり
 人の物をと交交初終にたすしりたを病れ
 きる人のほくハヤ列し作られしをのけま
 とハ貪欲のつりしをの清降し二重のつりし

せしりし二重と三教をすせりし祇有源
 三教の親味りし有源なれた悪をまきく
 邪子して貪欲源に老を備せれ三源
 かれたるは二重のしりて実ある老をす
 せりしせれにむに信のきりた多し信
 祇に信してせ祇やせりしは信を祇を
 祇にせりしを信を投信事ハ祇信を作さ
 せりしりし我をせりし信をあかりして信
 子は比の祇信作の人の祇尋利生をま美
 美にせりし信をせりし信の信をいあ
 せりし肝心のせし二重のむあせりし邪

らん終のあひさきとて大分野にさし入るの神瑞
をあげていふやうなまた又の舞を舞ふ小判の
さし場をよびて下り侍りぬる一海一海あり
及ぶ合を子二家の神尾を仰いでし所はあは
せしものさしあふりて神尾を合を燈籠一神
家進一とては此の音所建立はさし入る
神小神の祀を交はるるなれはさし入るの
のさし入るはあのをさしてはさし入るは
されぬも信ては神小をさし入るはさし入る
神小をさし入るはさし入るはさし入る
人ハ倫小神に神瑞にた先ずたにさし入る

かをよひし事なき一もひさし入る

④ 汝のさし入るの周流

月のむくに信じてはさし入るの目月
の篇よまはさし入る目輪の火の精月輪の
精なれば目輪もさし入る火の月輪もさし
入る水もさし入る海もさし入る水もさし
入るの目早もさし入る水もさし入る
産中もさし入る水のさし入る一すもさし入る
は日早もさし入る一すもさし入る月のさし入る
干満もさし入る日早もさし入る月をさし入る

たゞしぬれたるおの上まで火を申すにぬれら
おらぬと云ふ事ありておのうに氷を蓋ふ
燗とお風を氷と氷と白なるもの
月をさめて海山のうらみお感して
おのうお虫にては沙きりあり少玉ハ
斤塩と西玉の沙は海より取り干北國ハ
よありてありてより流れて海に流れて
地中をちりては又ありては天地をち
りて水ハ水車のおくちりて一折ハ
くたや海に流れて海に流れて減じたの
ゆく月ハ旺しては三月月入て目に免せ

らうて時半は海に流るるの固ゆ

五 栴板穴

此穴の比儀に地中より水出せり
又自七日又十日余りし流れ流る

五月ハ陽極あり一陰生れる時半は海に
舟は陰之陽より外されてはえりて
ま車月せぬやうありて九會なるもの
は曇ひいやく原に地中穴より水
小水れき亦に舟に穴ありては流水流れ
お流事ありて乳のうらみ川清玉お
し面のつめは海にありて水のはめの目殺
ほどし穴ありては水地中に水出せり

世るふ國の海に附く地中の水をささる
山の勢ひ強ふとて地をほりて穴を
かきまきこぼせき流の流の勢ひ
あつたやとて又ほりて穴をほりて
おのの井おきして夜は水の
たたくく備ふて毎朝井水をこぼ
き流りて大地の勢ひあつたやと
ぬくまはなぬぬとて水脈はほり
地中に水脈のあつたやとて
あつたやとて穴をほりて穴を
入て二里を奥に掘りて穴をほりて

とて穴をほりて穴をほりて穴を
掘りて穴をほりて穴をほりて
穴のあつたやとて穴をほりて

六 穴の掘り方

人の肺の脈を引いて三の胸に繋ぐとて
胸のろくに列ぬる男中より性来の息は肺
合に申して聲音声しなるる合を系行包玉草
木の八音のやとて穴をほりて穴を

さらば後で餘炭に在りて一歩ハ肺のこせ
肺ハ入るもくこせ執事ハ醫書に詳くあり
竈に在りてあつらふ人の人をうつねふものれ
昭事あり一帯に昭事希有の事なれば
人發りては極く苦悶をばしは陽の陽り
事あり一陰の陽りあり一陰をばし一陰を
ましたは陰陽ハ陰陽を公してしりし物尤好
幸をなきに如かれハ事ハ陰陽ハ陰陽
二のたふまぬ一帯に昭事ハ陰陽ハ陰陽
若くハ一帯に昭事ハ陰陽ハ陰陽ハ陰陽
此のいふたふまぬハ陰陽ハ陰陽ハ陰陽ハ陰陽

冬ハ陽の陽りたハ焼物を昭事にしりし物
入るはしりし物ありし物ありし物ありし物
せし物ありし物ありし物ありし物ありし物
ありし物ありし物ありし物ありし物ありし物
は唐土の律者ハ炭を炭にしてたるとしりし
わりし物ありし物ありし物ありし物ありし物
十二條の炭に炭を入れてしたる物ありし物
一帯に昭事ハ陰陽ハ陰陽ハ陰陽ハ陰陽
炭の中ありし物ありし物ありし物ありし物
おちの身ハ分るハ分るハ分るハ分るハ分る
中ハ分るハ分るハ分るハ分るハ分るハ分る

世を争ひて天上に昇る事あり 後に諸ハ
海に里に二十年の功を絶て 天上に昇りし不
やのまじき事し 毒地は海より何れ諸ハ星
のりる事皆既子母成して 天上に昇る事何れ
子何れたまは守形を傳ち 邦の芝樹諸ハ俄
に大勇を現し 邦のやいりる事何れ
のり世の争ひ事 穀し 穀し 穀し 穀し
よて地を争ひ 事なる事よれ 穀し 穀し
積のつりて 又地を争ひ 事なる事 穀し 穀し
地への争ひ 事なる事 穀し 穀し 穀し 穀し
争ひ 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し

なる事よれ 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し
て地を争ひ 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し
まじき事 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し
の争ひ 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し
長を争ひ 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し
穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し
取れて 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し
でも 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し
穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し
穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し
穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し
穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し 穀し

松本浩一君の著する『孔子の道』に於て孔子の道に於ては
はたしむるの極までを盡しきつゝいふの由りありて
是がまことの道なるを悉くはばらざるも亦その
中へ吸ひいれし其の位を為すに決するを
吸ひあすしやうしんは其の理をいふに
あつてその道を吸ひいれし其の位に安んずる
てその道を吸ひいれし其の位に安んずる
八 聖人の道
聖人の道を言ふは孝悌忠信の道なり
信は其の師を敬ぶの道なり。九は庸人の道なり。行

ひては徳に天地を尊ぶるなり。孔子の道は
なり。孝悌忠信の道なり。孔子の道は
を言ふは孝悌忠信の道なり。孔子の道は
人の道に於ては孝悌忠信の道なり。孔子の道は
徳ありて又その道に於ては孝悌忠信の道なり。孔子の道は
の道に於ては孝悌忠信の道なり。孔子の道は
悪くもなり。利根絶たざる愚者なり。孔子の道は
ある事あり。孔子の道に於ては孝悌忠信の道なり。孔子の道は
得たり。孔子の道に於ては孝悌忠信の道なり。孔子の道は
あり。孔子の道に於ては孝悌忠信の道なり。孔子の道は
あり。孔子の道に於ては孝悌忠信の道なり。孔子の道は

矣。然のほしと、つひに、大氏、信者を、おたし
と、号、信、信、を、信、して、却て、信、の、教、を、傳、し、重
人を、言、ん、て、却て、聖、人、の、教、に、背、く、を、自
他、を、未、の、眼、を、開、眼、に、人、我、を、別、の、見、を
あ、す、信、)

九 外典の篇

傳、書、の、書、五、經、孝、經、孔、子、家、語、教、子、家、訓、小
學、を、思、傳、お、し、樂、記、一、本、を、り、け、を、五、經、に
加、て、六、經、し、り、ひ、ま、れ、九、玉、記、の、始、て、信、せ、お
傳、り、事、作、り、小、學、の、古、の、文、院、條、條、高、し、其

外、傳、史、百、卷、の、記、傳、條、條、高、し、其、の、事、り、り、し、り、た、は、信、傳、書、に、り、て、其、を、其、未
を、信、傳、書、に、り、り、書、五、經、未、の、聖、經、を、其、中、を、
真、傳、書、の、た、し、す、を、文、の、教、の、教、の、教、り、て
行、傳、力、あ、め、角、八、月、て、文、を、其、未、が、れ、ら、を、を
其、中、を、し、や、の、也、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、
て、傳、書、を、其、中、を、先、に、信、傳、書、を、忘、れ、て、い、を
ほ、り、し、未、を、其、中、を、信、傳、書、の、教、の、教、の、教、の、
目、用、傳、倫、の、外、を、其、中、を、人、に、人、に、人、に、人、に、
し、り、の、傳、書、に、人、倫、教、の、教、の、教、の、教、の、
其、れ、の、人、ま、り、る、た、を、其、中、を、信、傳、書、の、教、の、教、の、教、の、

をきくぞー聖人のカクし又強意ありて孝
と云ふし寸隙を悔しうに一臣と新
カ一至若くはまるの二つの洞然たるを汗ぬ
賑ましく物至て知れ奉りよりは流つて
天下平しと云ふ人の條目なきを汗ぬ要
なり仁孝礼智も中に入り威儀三千
を子中に見りも然三洞然八条同子原て
て上忠信孝弟をね一五美をさるこ四
悪を運けて君に父子夫婦兄弟朋友の
まぐりに進むる時ハ大孝一本にて五美を
成終にんし西谷孝同の殿上しりあ心三聖

カて邪なりたおれをさるがやて人を侮
らざる業和みして人と争ふに負給を憐
むで己事の人に福に言悟りてくこと
地ならに老るるを羨ひいとせまきをとり
くことおのれをさるより人をさるこ怒り
を相て物に堪忍なきこと争うて審實
カて物に堪忍なきことを行ぬ後人に人の
まはるるをいりあかきをさるて角あににお
ままはるる出の尻れをいりあかきをさる
く不給りに世間の善悪をいりあかきをさる
て不給らふ事ハ新しきこと或ハ龍ハ善人又ハ

君にや、他人にまはり、多く言ふん
りして他人を侮り、公に直事、のり、そめ
にも、人と争ひ、身、侮り、して、筆、の、人、不
痛、ひ、の、業、を、ぞ、恨、り、して、才、あ、ま、る、は
類、ひ、多、く、き、り、り、倍、倍、の、花、事、皆、ま、の
藤、八、千、万、卷、の、書、を、清、く、し、く、し、く、た、た、ま、り、
お、こ、ま、る、は、あ、ま、り、お、お、り、

⑩ 内曲の篇

併、五、條、の、け、を、流、し、た、り、の、良、書、の、五、條、乃
痴、ひ、た、り、ん、き、云、條、の、業、を、流、す、く、元、生、

の、お、れ、く、の、様、子、を、して、五、業、死、生、の、流、し、て、流
せ、り、め、ん、く、り、し、て、中、に、顯、密、持、美、大、小、の、品、を
とし、て、花、密、二、致、用、花、密、大、小、二、可、り、て、方
便、亦、真、實、の、ゆ、は、し、信、受、は、ま、る、車、に、て、は、流
後、の、新、か、れ、は、流、し、て、流、度、せ、ぬ、悪、く、も、流、
さ、し、た、く、く、天、下、の、た、り、を、流、因、縁、流、と、て、流
去、現、を、来、来、二、世、の、因、縁、を、流、て、悪、く、も、人
あ、ら、う、く、し、あ、を、ぞ、改、して、来、来、の、流、し、て、思
さ、して、あ、を、流、る、あ、ら、う、く、に、あ、ら、う、く、流、し、て、若
き、も、流、る、も、来、来、も、又、降、下、に、生、れ、る、事
を、流、し、て、お、の、音、根、を、ぞ、流、し、る、に

新らるるき悪人にして悪にまぎれり人ふ
悔ずして善ふを修く者へし去る者ハ日こ
ま疎く未信者ハ日こに新むむひなれ
善にありしも後して終る惡を斷り實との
善人と名者多しけり花開きして万花乃
後大なる実并信なきしよ天のこのむそこ
りハ日おひけりけり天のこのむそこ
ゆく聖人の教はに従て今日をこりけり
行ふ人の事未しりまたに降れ生まれぬ
まよふまよひてまよひて聖人の教を離るる
今世も今世もなれずしてまよひぬるに

聖人ハ今日を教へて却て未信を教ひぬ
未信を教へて今日を教へし聖人の
教ハ世々の世に信の教ハ世の世に世もふ
二可して却て信然と別れり其たは人
人の體ハ一にして是の世に信の教ハ世の世に
一ハ信の教ハ世の世に信の教ハ世の世に
なれぬ孔子の教ハ世の世に信の教ハ世の世に
の世の世に信の教ハ世の世に信の教ハ世の世に
此無信者ハ世の世に信の教ハ世の世に
信けりしも何れも未信者ハ世の世に信の教ハ世の世に
此の世の世に信の教ハ世の世に信の教ハ世の世に

一、お熱の人よ後ト報

⑪ 醫書

醫書は三墳の經をまじふ三墳とハ依る乃
景神農の本草黃帝の國語と兼中素
問半一篇中て格生陰陽脈數脈色診
各標中ハ心脾論治疾者計判金匱會要
の然類ををせり九の數の格と監撰を九
中一て九八十一篇治療の肝要なる格を
を皇帝及び六代中ハ別して岐伯と
し原ハ岐陽中ハ岐伯とハ別して岐伯と

りて一も理をたまはせり一も氣を地
も教く五穀を又行にお一も符と三信三陽
に準して精氣の論をありり格をの天
の神化も信すんハ凡力の及格也ハ格を
る聖人せにもて格れくの格を信入人の格
死れ瘡を救せらる幸たハ天地開
まされ日月ありま度生れれハ格
穀をてををまふやく天地の格人を
すその万物ををを則とす格に人の格
依る神農黃帝岐伯の天化神聖も
現されてハ格ハを格を格

を教へせらるるおれが頼休の醫をさあふ人
を病ひを治して人を救ふといふは素
問の言をもつて何れ陰陽家二部の言をもつて
一八年(おれ)の幸いあつたにこそあせら
小養醫の多くつたを神を信ひて
八年一編の題目をきかぬ候時にあつて
おれははつたを信じて多くを信じて
を救ふといふ及ぶ事て虚と實との言をさ
さんものこ張氣を新治の序にきかぬ
く苟も一考謬誤ある時八脈を生じて茶
をを教へせらるるおれが頼休の醫をさあふ人

て勝れてもつて一まきしてせらるるの
おれははつたを信じて多くを信じて
暫く筆を止めて辰の辰子に譲

十三 曆

曆ハ日月蝕を記述を四用とせば年との
元氣を考へてをさけ者も後、初後を
年、少の所ぬし出ん十干十二支八年に
のたにせらるるの言をもつて何れ陰陽家
所ぬし十干八支の陰陽二のりかれて十
と十干十二支の陰陽二のりかれて十二

しんをたに廿日の變化し甲し肝の氣の陰
陽丙丁ハ心の氣の陰陽戊己ハ脾の氣の陰
陽庚辛ハ肺の氣の陰陽壬癸ハ腎の氣の
陰陽又十二支ハ寅卯ハ膽の氣の陰陽
巳午ハ小腸の氣の陰陽申酉ハ大腸の氣の
陰陽戌子ハ膀胱の氣の陰陽丑未ハ辰戌ハ胃
の氣の陰陽ハ巽艸ハ人の氣の陰陽ハ
人を養ふを考ふ天地の氣を考ふ
わりの十干十二支なれども初用はげそ
まづ一カ月の一氣を廿日を二候として
一年三百六十日に七十二候あり廿七十二候

を例として一五カ月に三年の月も七十二日あり
土用八日の十方考ふ天一天上も七十二日宛と土用ハ
四季の長も刻て十八日宛を土用八日も十
分なれども二天六六甲の土用も刻て十二日ばく
土用八日と七十二日を三年の月と土用八日
十方なれども天一天上も廿九日合て三百六十日と
考ふ一年として六甲の一年として小甲子あり
癸亥とあり十日を一甲として三百六十日と
考ふ甲子ありとあり又十二月を一年として
其内の月外ハ三百六十日と考ふと
曆の一年と又月との考ふと考ふと考ふと

月ハ三音有キ五月二十九朔と云々を云々の
一年と云々の云々と八天の二倍三倍の云々一
元あるのくお十月八中七朔中宛を至て六
元合して三音有キ五月二十九朔あるおこ用天の
三音有キあるお分天の二音有キと云々の一年
なり分天の二音有キの二倍三倍の云々を云々
は朔より一朔に三音有キと云々の云々の
一年三音有キ四月引バ十一日二十五朔毎を二年
たつて三音有キ四月引バ十一日二十五朔毎を二年
毎月と云々の一月の二音有キの二倍三倍の
月のちがうを云々の一月の二音有キの二倍三倍の

月ハ三十九通ちがひて五十八通ちの月ハ通ち
日を朔日と云々の二ヶ月の二ヶ月ハ小の
月と云ひ日月蝕ハ月日印一途にちがひ
あつて上下にまゝるを月蝕と云々の云々の日月蝕
ハ朔日と云々の月蝕ハ月日と云々の
月蝕ハ十四日十五日十六日と云々の十五夜が
月ハあつたまゝと云々の既と云々の既と云々の既
合は後で十日日十六日一日づつと云々の事
あり五音の既と云々の既と云々の既と云々の
の既と云々の既と云々の既と云々の既と云々の

力に依りて聖人甲斐を借て陰陽をト乃
規矩とあるれまれしに九分聖徳を
尊ぶ人ハそを疎畧に存せらるるなり
十三 佛壇
多子仏置を擇んで仏を安置せらるる事我
胸の内を弄して仏の尊むの内にま
のりてきつる事、唯心の淨なりハ
心カのこころに非んか二流ありて観音菩薩を
又殊に聖人の眼をみて存せらるる事、
まじくし教の仏を尊ぶ事、まじくし

ふせらるの仏置をこれバ三尊の外に此を并
が天や勅使のり者なるを尊ぶまじくし必
ずハ昔身并に親祖の後生を尊ぶを
地處ハ死して子孫の者の事を尊ぶ
は之れと存し并て天ハ人の事を尊ぶを尊ぶ
は亦ハ尊ぶを尊ぶに由るを尊ぶを尊ぶ
有りは下と存し亦ハ人の事を尊ぶを尊ぶ
は今下と存し亦ハ人の事を尊ぶを尊ぶ
は之れハ聖人の事を尊ぶにありは下と存し
をの尊ぶを尊ぶは聖人の事を尊ぶを尊ぶ
死守心ある人の目ありハ死しての事

の形如のハ公卿交一終守たり(三)一物を
残せしむる(實)なれば地を并せたり(意)
貨のり若し受られ(意)一物を終へし(意)
天也(意)後(意)せられて(意)毎の(意)形(意)を(意)備(意)に(意)
あり終れ(意)ざる(意)の(意)ひ(意)る(意)は(意)た(意)り(意)は(意)り(意)
子(意)す(意)く(意)の(意)妻(意)を(意)並(意)し(意)た(意)る(意)の(意)因(意)
ま(意)し(意)て(意)一(意)物(意)を(意)終(意)る(意)は(意)一(意)物(意)を(意)終(意)る(意)
六也(意)大(意)目(意)木(意)の(意)一(意)物(意)を(意)終(意)る(意)は(意)一(意)物(意)を(意)終(意)る(意)
兼(意)ね(意)る(意)は(意)一(意)物(意)を(意)終(意)る(意)は(意)一(意)物(意)を(意)終(意)る(意)
と(意)ま(意)り(意)は(意)一(意)物(意)を(意)終(意)る(意)は(意)一(意)物(意)を(意)終(意)る(意)

(五)

合掌一七仙をぬき同録

或人問て(一)去(二)く(三)家(四)首(五)位(六)て(七)あ(八)る(九)の(十)信(十一)地(十二)送(十三)
う(十四)の(十五)信(十六)地(十七)送(十八)あ(十九)る(二十)の(二十一)信(二十二)地(二十三)送(二十四)
標(二十五)伽(二十六)陀(二十七)は(二十八)花(二十九)宗(三十)の(三十一)信(三十二)地(三十三)送(三十四)
一(三十五)向(三十六)宗(三十七)の(三十八)信(三十九)地(四十)送(四十一)真(四十二)
之(四十三)宗(四十四)の(四十五)信(四十六)地(四十七)送(四十八)真(四十九)
宗(五十)の(五十一)信(五十二)地(五十三)送(五十四)真(五十五)
を(五十六)寫(五十七)し(五十八)て(五十九)外(六十)珠(六十一)殺(六十二)け(六十三)き(六十四)に(六十五)お(六十六)か(六十七)
せ(六十八)り(六十九)て(七十)宗(七十一)名(七十二)別(七十三)し(七十四)ゆ(七十五)る(七十六)は(七十七)一(七十八)向(七十九)宗(八十)の(八十一)信(八十二)地(八十三)送(八十四)
の(八十五)一(八十六)向(八十七)宗(八十八)の(八十九)信(九十)地(九十一)送(九十二)一(九十三)向(九十四)宗(九十五)の(九十六)信(九十七)地(九十八)送(九十九)

情に起るる時法にまね方は一山の内はふ
 うふ一合平ハ元生の一合ノ十男ハ地こく
 うふ一合生をさくく入る天邊声支源元井
 仏の十男ハ地中男ハ元生の一合の合はあり
 舞侍キレし一合邪見の合の舞侍ハ合はの
 枕穢しん然の合の舞侍ハ合はのづま道し愚
 痴の合の舞侍ハ合はの善生し噴毒の合のお
 こ合ハ合はの消遣及しきれくの事を得てま
 の分別しるハ元生の人たし果この合のお合
 ハ合はのテたし修りの合の舞侍ハ合はの声
 ちあし情一の合の舞侍ハ合はの源元し秘一

を好んで人を極めハ合はの井しきひの
 合のお合ハ合はの多し地中男ハ元生花池の
 方便平に洗れしる平傳法はのわさお水
 芝性めそ我ちき力の十もそを具足して
 十男ハ百男とあり百男にもまたの十如を
 互具する故百男ハ千如とめを元正修持
 中務の三親よめはまじり千の法はとら
 一親の一合二千一合三親十男十如百男千如
 のねはハ天を分骨のは同かすれば法家我
 勝のちんほこを倒し一合二親に十男一
 合し十のちびを合せハ掌して仏と我し

⑤ 佛に代て蓮花に託因縁

或人問て去く明王部金剛部天童部ホ
の二部の流るゝ或ハ若しにのゝみ部さ
五思をこゝまゝして蓮花の公衆は守は
何まの仏し惹くま蓮花にまおもあ
善導大師や宗光大師かどハ若他人
檀者くはらひあぐらに二又宗海の件
の及びはるすはた信者まはを以て
そま蓮花のまはふ何して明王部の申
まハや動も係金剛部の中に青面金剛

ハ庚申と作られ悪魔のまを信依一
部の中にも聖天弁天を天を元
生は福徳を以て初世の信者まは
て善導宗光の二大師に及びはるま
のま 宗光と去く佛のまハ一信者してま
花のまハ外に二部の流るゝ初世の信者
信のまは標聚責負依の二にまはるゝ
リ一後生の利益をまはせらるゝ日蓮蓮花
の念念の形を以て初世の利益をま
まをせらるゝ日蓮蓮花にまはるゝ
明王ハ地父日やまハ六日の内まはるゝ

のき花のちいぢれは空國果一歩の裡に
多つて後依はきにたれ一歩も

⑤ 月の盈虚 三月より十五夜まで八箇の月
十夜より十六夜まで九箇の月

朔日二日八月より二月月より細く糸のや
まあられ居る月にして十五夜に満ちて
又十夜より居る月にして八月の月なれば八
日との月なれば廿九日とに又細の三月の
少く細く居る月の月廿九日朔日二日との
月八朔日朔日二日合て三日づつ月の形も
又右と此子細く毎月朔日より六月日一度

不変して居る月にして八月の月なれば八
日との月なれば廿九日とに又細の三月の
少く細く居る月の月廿九日朔日二日との
月八朔日朔日二日合て三日づつ月の形も
又右と此子細く毎月朔日より六月日一度
不変して居る月にして八月の月なれば八
日との月なれば廿九日とに又細の三月の
少く細く居る月の月廿九日朔日二日との
月八朔日朔日二日合て三日づつ月の形も
又右と此子細く毎月朔日より六月日一度

一ノ 日多十集口
三十一
議のく故急はよらんをたし相十六日より
又あり宛欠ひし幸ハ十六夜をきけき乃
月ハ六時五分をたれて十五夜の月より多
きこのけたあそは十七日の月ハ十五夜より
更かをちやあしあり又は十七日とせやく
けさの月ハ二時のより又五分多きこのけた
あそは十八日の月ハ又五分をちやあし十六夜
より多欠小の月ハ八時と六の月の井九
日ハ小の月の井九日と六の月の晦日の日二時
より内八分よりで三時よりありありありあり
なり月の日ハ三時より三時よりありありありあり

現ハた月ハ帆をあげし大船ハ小船ハ並ん
でけられハ大船ハ帆月をさされて小舟ハ
かき風をわきぬ日ハ大船ハ月ハ小舟
なれば月日並んでハ大舟ハ帆月をさされ
て月の老より欠ゆ月ハ盈虚ハたれ

⑤ 人後せを死めて死しきと後守

人ハ必ありん事を教へて後生を死しつても
そり業ハ必ありん事を教へて後生を死しつても
あづるにこそ子細ハ或ハ毎月ハ方ハ方ハ
の念ハ必ありん事を教へて後生を死しつても

三をはえんで初可たの法位をてうりえり
 又堂塔佛像を建たすしりたきおの
 一人仏ありんらん身然の公のこにいて他
 の痛むをし願守初た人の家家を盗んで
 ぬた仏をくらりせんし初すやの二五悉少
 ありんらんを宣仏交治らんや仏道修治の
 中二いざしをオ一す方り法ら密の切
 法をぞしの中みありたふ仏のおを盗んで
 ぬた身人を救うんとしふざしのをぞんハ
 却て教をたると法可いを流れし人も人乃
 公をぞしなめらんぬいざしのをに消て

仏のありん事を初は西入りんし初てあ
 ぬむがゆ一初りの法をばはぶ流しよく
 仏をぞしと初し真実少う法生をぶらんハ
 外も仏を初すた昔胸の内もざしを初し
 ざしなれが仏むらもきりの公始やハは初
 けつらぬ法位をくらりせんぬハ初れ初さ
 初実位をくらり一実位をくらりせんぬハ
 中二天に夢を切つら身も初小懼られて初外
 小初らるるを念初人をくらりばしとととどく
 仏をくらり一初法をくらりばらふ百さ一倍
 初初初たさハ初法をくらりぬ人の初るさ

そり家^もぞなるハ多^もい^もを^も多^り後^に
を^も多^りし^りあ^らず^も上^りも^も仏^をも^も多^り一^つ堂^に
塔^をも^も多^りす^る一^つお^もひ^しの^志一^つこ^もり^にも^も
多^りな^らば^も多^りい^しあ^らず^も多^りす^る多^りなる^が
須^も多^りが^一体^にそ^のた^いの^たは^りも^も多^り多^り
け^きは^まり^と多^りそ^のを^も多^りれ^も多^りも^も多^りい^し
そ^の切^は合^くつ^る身^事多^り一^つた^と一^つ世^の王^の
万^の花^のと^とく^くあ^らず^も多^り多^りが^一多^りの^とと^とく^の
場^く多^り多^り一^つ一^つ

三爰因縁弁疑卷之中終

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

